

子どもたちと一緒に 地域文化イベント!



博物館は、地域の歴史や文化を次の世代に伝える役割を担っています。
そのために、財団施設では、地域の文化イベントを行つて子どもたちに参加してもらっています。
ここでは、仁風閣を舞台にした子ども麒麟獅子舞、因幡万葉歴史館の朗唱の会を紹介します。

仁風閣



麒麟獅子は、角が一本あるとてても不思議な伝説の動物です。因幡地方に伝わる麒麟獅子舞では、麒麟の頭をついた獅子が舞い、真っ赤なお面をついた猩々があやし役を務めます。音楽は笛と太鼓と鐘を使って演奏します。

この特徴ある麒麟獅子舞は、今から350年くらい前の江戸時代に鳥取県のお膝漁だつた池田光忠が始めたといわれています。それからずっと大切に守られてきましたのです。今から150年前に仁風閣ができた時、泊まっていた皇太子（のちの大正天皇）もこの麒麟獅子舞を見学したそうです。



鳥取城がにある仁風閣では鳥取の大切が歴史をみんなで守つていく場所となるよう長い歴史のある麒麟獅子舞を庭で披露しています。昨年から、地元の久松小学校の麒麟獅子クラブのみなさんにも出演していただいているます。これからも、大切な鳥取の伝統芸能をみんなで一緒に伝えていきませんか。（坂根達哉／仁風閣館長）

その後、万葉集の最後を締めくくる歌をここ、国府町で歌いました。「今でもその歌を覚えている」と言つてくださることが、多くの小学生には、近くの小中学校の児童の会には、近づいてから「万葉歴史館で朗唱したことがある」「今でもその歌を覚えていたのです」。

今後の予定
日時：11月28日(日)
時間：10:30～11:00
場所：仁風閣・宝隆院庭園



因幡万葉歴史館の大きなイベントに万葉集朗唱の会があります。参加者は万葉の時代の衣装を身に着け、万葉集の大伴家持の歌を自分で好きなように歌います。

大伴家持は、國守（今の知事にあたる）であったと同時に、すぐれた歌人でもあり、万葉集をまとめた人ともいわれます。今から約1263年前に、因幡にやってきました。そして、万葉集の最後を締めくくる歌をここ、国府町で歌んだのです。

大人になつてから「万葉歴史館で朗唱したことがある」「今でもその歌を覚えていたのです」。

地域の文化を受け継ぐ
久松麒麟獅子クラブの取組み
久松小学校四年担任 山尾 貴幸

時、現在の六年生が三年生の時に「麒麟獅子舞」について学んだことを契機として、そ年の翌年、「久松麒麟獅子クラブ」が発足しました。三年生の今年、五年生二名、四年生五名の計七名で活動しております、月に一度、湯所麒麟獅子保存会の方に、獅子舞の習に励んでいます。

子どもたちの動きや、笛、太鼓の演奏の仕方を教わっています。ゆつたりとしたリズムや旋律に合わせて麒麟獅子舞を演じるのは難しいですが、子どもたちとした雰囲気を出そうと練習に励んでいます。

昨年度、「因幡・但馬の

麒麟獅子舞」というイベントに参加し、仁風閣で舞を披露しました。今年も十一月二十日に、仁風閣での発表があります。練習の成果と地域を愛する気持ちが伝わるよう、そして、平和な世に現れるという麒麟の舞によって鳥取の地に幸福を招くことができるよう、精一杯舞つてくれることと思います。ご都合がつきまいたら、ぜひご興賞ください。

（金指真澄／因幡万葉歴史館館長）

昨日、今年と、新型コロナ感染拡大防止のため、残念ながら中止しました。